

II. 昭和41年度事業概要

1. 概況

昭和38年11月、総合資料館と分離後、38～39年度にわたり、岡崎本館の建物外部および内部(一部)の改修が行われ、利用者は親しみやすい図書館として、その利用は漸増している。ちなみに昭和39年度の本館・市内3分館の利用者数は266,314人であるが、41年度は284,043人と増加している。

本年度は、ふるさとを守り、住民のくらしを読書を通じて豊かにするため、本府初の自動車文庫を設置し、11月17日、蟻川知事により“あゆみ”号と命名され、中丹、南丹地域を中心に13市町を月1回程度巡回して貸出を行なった。自動車文庫の設置に伴ない、41年11月から綾部・園部の2地方分館を閉鎖した。

2. 館内利用者(本館および市内3分館)

本館および市内3分館における本年度内利用者総数は、284,043人(1日平均1,000人)である。これを戦前最高の昭和10年の利用者総数129,782人(1日平均399人)と比較すると、約2.5倍に当るわけであるが、閲覧室面積は反対に縮小されている。

	戦前	戦後
利用者総数	4,288,759 明治31—昭和20 48年間	5,743,792 昭和21—昭和41 21年間
うち女子利用者数	224,707 明治39—昭和20 40年間	1,593,943 昭和21—昭和41 21年間

戦前と戦後における図書館の館内利用者の動きは右のとおりである。

3. 京都市内4館の利用者の内訳

	本館	伏見分館	中京分館	上京分館	合計(又は平均)
利用者数(人)	188,238	49,140	21,874	24,791	284,043
利用冊数(冊)	120,622	38,253	40,231	42,422	241,528
開館日数(日)	285	279	282	288	284
1日平均利用者数(人)	660	176	78	86	1,000
男(%)	73	56	77	66	69
女(%)	27	44	23	34	31
一般(%)	20	11	48	4	18.5
学生(%)	80	89	52	96	81.5

岡崎本館における学生の類別利用率はつぎのようになっている。

大学生 13.5% 高校生 34.0% 中学生 8.5% 小学生 7.5%
各種学校 16.5%

4. 利用図書の内容

岡崎本館での図書別用冊数は、約12万冊で、1日平均431冊である。これを図書の分類別にみると右のとおりである。

総記	3.6%	自然科学	16.5	語学	8.3
哲学・宗教	3.0	工学	3.7	文学	14.5
歴史・地理	9.3	産業	1.4	児童	20.0
社会科学	10.3	芸術	2.4	新聞・雑誌	7.0

5. 館外貸出

府民全般へのサービスの一つとして、また所蔵の図書がフルに活用される体制をとるため館外個人貸出しを本館、伏見・中京分館で、また団体貸出しを地方4分館と自動車文庫で、それぞれ行なっている。

(1) 個人貸出

岡崎本館では勤労青少年・成人のために貸出室で、幼児小学生のためには児童室で、また伏見分館でも実施している。中京分館では学生をも対象として個人への館外貸出しを行なっている。

本館では交通の便にめぐまれているため、サラリーマン、O・L、児童、主婦たちによるこぼれている。

貸出冊数は右のとおりである。

(2) 団体貸出（地方4分館と自動車文庫）

地方の4分館と自動車文庫は、各種団体に対し、長期貸出（期間1カ月）を行なっている。本年度内の貸出冊数は37,758冊である。

なお、これらの長期貸出図書は、1カ月の貸出中に各冊平均3人の手を経て読まれているから、この分の本年度利用者総数は約110,000人と推定される。

これを団体種別よりみると延べ利用回数は右のとおりである。

	登録者数	貸出冊数
本館	1,843人 (うち児童 927)	26,732冊 (うち児童13,553)
伏見分館	1,224	12,730
中京分館	1,054	10,235
合計	4,121	49,697

青年団	34	学校	795
公民館	57	会社工場	114
図書館	1	P. T. A	1
官公署	365	その他	4
読書会	499		
婦人団体	117		

6. 児童室

子どもたちにより環境を与え、読書を楽しいものとし、読書を生涯の習慣として身につけさせるために、子ども向きの学習書と一般図書を3,500冊開架に用意している。本年度の利用者

総数は14,197人(男41%,女59%)で子どもに図書の貸し出しをおこなっている。なお母親文庫を併設(40年7月から)してお母さん方に喜ばれている。

7. 蔵書冊数

昭和41年度末における当館の蔵書冊数は約112,520冊となっている。その各館別の内訳は右のとおりである。

本館	46,274冊	峰山地方分館	6,701冊
伏見分館	9,214	宮津地方分館	6,331
中京分館	7,327	北桑地方分館	4,735
上京分館	7,832	木津地方分館	5,002
館外奉仕課	13,788	自動車文庫	5,316
		合計	112,520

8. 分館

(1) 伏見分館(昭和25年2月開設)

この分館は、はじめ他の建物の一部を借りて出発したが、昭和29年、新館舎の完成とともに移転再開した。敷地859平方メートル、閲覧室231平方メートル、座席120である。岡崎本館から8キロはなれたところにあるこの分館は、現在の開館時間は平日正午～午後6時で、利用者数は約5万人である。なお個人貸し出しをおこない、ますます府洛南地区への図書館サービスを多角的に拡大しつつある。

本年度の入館者数は1日平均176名、1日最高328名であった。

(2) 中京分館(昭和24年6月開設)

この分館は、当初丸善京都支店の地下室を借用してきたが、丸善支店の都合により、一時閉館し昭和32年6月に烏丸丸太町下ル京都府烏丸庁舎の3階を利用して開館した。その後烏丸庁舎の取りこわしのため、暫く京一商同窓会館(中京区西ノ京中合町)に仮移転し、40年11月から現在の京都府中京庁舎(2階158m²)で開館した。

中京分館は新刊の小説・随筆・新聞・雑誌を中心に、完全開架制をとり、75座席で気兼ねな市民の読書室として多くの人々に喜ばれている。

なお利用者の便宜をはかり、個人への館外貸出しを実施しており、毎月約852冊の貸出がある。

(3) 上京分館(昭和26年4月開設)

上京分館は昭和26年4月クルーガー図書館と合併して、最初紫郊会館の一室を借用して発足した。この分館は市の北部地区の人々にサービス活動してきたが、都合により北部地区婦人会の協力で昭和31年4月現在の北区等持院東町財団法人桜谷文庫故木島桜谷画伯の元画室に移り、現在では西部地区の人々に利用されている。ここは市電・京福電鉄・国鉄バスの交叉点白梅町から西北500メートルに位置し、周囲は住宅地である。敷地1,127平方メートル、閲覧室198

平方メートル，座席約80を有し，広い庭を前に控えて明るく読書に快適である。

本年度入館者数は1日平均 86名・1日最高218名であった。

(4) 地方分館

昭和25年に，峰山・宮津・綾部の3館，次いで昭和27年に，園部・北桑・木津の3館を開設し昭和41年10月綾部・園部分館を廃止し，これに代り，11月自動車文庫「あゆみ号」が発足した。これらの地方分館と自動車文庫は，地域内の公民館，婦人会，読書会などの団体に対して，30冊～50冊を1カ月の期間で団体貸出を実施している。

これらの利用状況は，利用団体の面では，農村青年の離村の影響から，青年団の利用は大きく減少したほか公民館の利用も少なかったが，官公署，婦人団体，会社工場，及び高校生などの利用は増大した。読書傾向の面からみると，各読書グループ，官公署，会社工場等への文学書の貸出しを筆頭に，婦人団体による「幼児のしつけ」とか「幼児教育」……等の家庭教育関係の図書の利用が多く，紀行書もよく利用された。その他学習参考書を求める高校生が多くなった。

利用団体・冊数は右のとおり

館名	利用団体数	利用冊数(冊)
峰山地方分館	366	8,108
宮津地方分館	293	5,469
北桑地方分館	217	9,036
木津地方分館	572	6,982
綾部地方分館	103	2,489
園部地方分館	254	3,184
自動車文庫	184	2,490
合計	1,989	37,758

である。

9. 経費

本年度の諸経費は約4,000万円以内で内訳は右のとおりである。

なお，本年度末における館員数は館長以下事務職員33名，技術職員1名・事務員1名・庁務員1名計36名である。

注．自動車文庫は41年11月から発足，綾部，園部地方分館は41年10月に閉鎖

費目	金額	比率
人件費	29,574千円	73.9%
図書館資料費	3,100	7.8
図書費	2,550	
定期刊行物	550	
その他の経費	7,337	18.3
	40,011	100.0

10. 京都府立図書館所在地一覧

館名	所在地	電話	館名	所在地	電話
本館	京都市左京区岡崎成勝寺町2	(77) 0069 2450	峰山地方分館	中郡峰山町字丹波	07726-2 -0364
伏見分館	京都市伏見区瀬戸物町746	(40) 9148	宮津地方分館	宮津市鶴賀	07722 2730
中京分館	京都市中京区富小路二条上ル	(21) 5728	北桑地方分館	北桑田郡京北町字下中	弓削 40
上京分館	京都市北区等持院東町56	(44) 9396	木津地方分館	相楽郡木津町字南垣外	山城木津 578